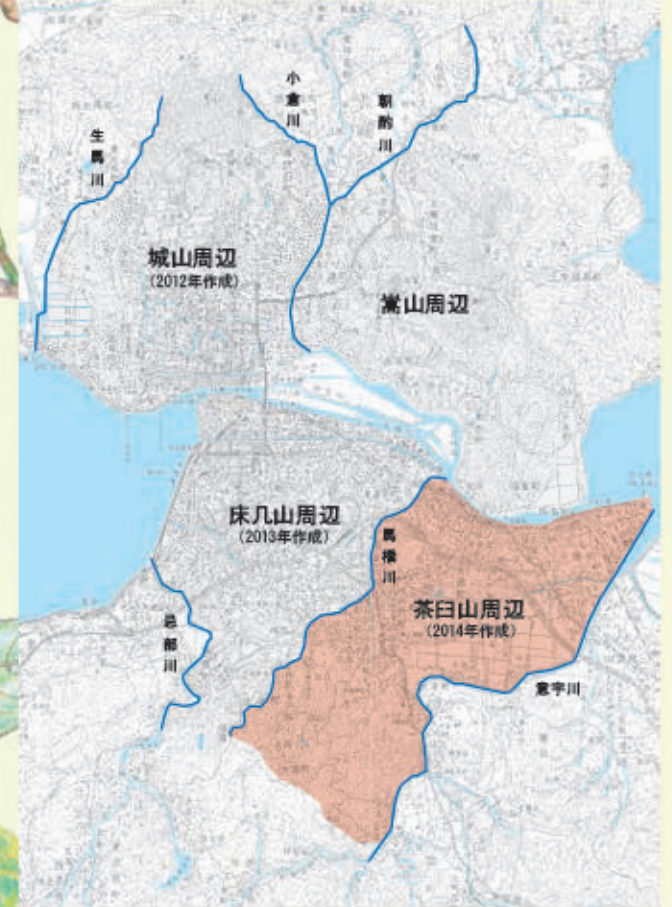


穏やかに水を湛え広がる宍道湖。大橋川が東西に流れ中海と繋ぎます。北は島根半島、南は尾道高原の稜線。これ等美しい景色を臨む中に、水と緑の都「松江」があります。松江市街を主要河川と山地によって大きく4つに分け、マップにしていっしょシリーズ第3弾は「古代ロマンを感じる茶白山周辺」です。このマップを通じて松江の豊かな自然を身近に感じて頂けるよう願っています。



制作：樹木マップ制作委員会
 事務局 NPO法人もりふれ倶楽部
 Tel/Fax (0852) 66-3586 URL <http://www.morifure.jp/>
 発行 松江市役所公園緑地課 Tel (0852)55-5369

2014年2月作成

*** 樹木ミニミニ講座 モクレン科の特徴 ***

- *枝はハチマキをまいている
- *方角を示すコンパスプランツである
- *雌しべと雄しべがたくさんある
- *花びらが3の倍数枚ある
- *樹皮や葉は良い匂いがする



ホオノキ



ユリノキ



タムシバ



シモクレン



コブシ



(樹木の解説)

① アリドオシ (アカネ科)
 常緑低木。首の長い白い花は葉の腋に2個ずつ付き、実は冬に赤く熟す。短枝の変化した鋭い刺が特徴でアリモ突き刺すというのでこの名がつけられた。



② イタピカズラ (クワ科)
 常緑つる性木本。雌雄異株。付着根を出して樹木や崖を登るように伸びる。イチジクと同じ仲間、枝を折ると白い乳液が出る。イチジクのような小さな実が付く。



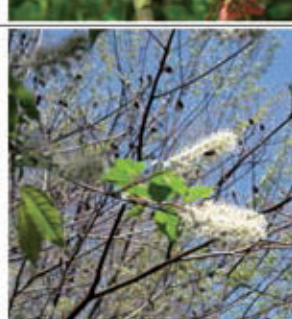
③ イチイガシ (ブナ科)
 常緑高木。春に葉の展開と同時に雄花がたれさがって咲く。果実(どんぐり)はその年の秋に熟し渋みがなく食べられる。昔は船の櫓(ろ)に利用した。



④ ウリカエデ (カエデ科)
 落葉小高木。雌雄異株。日本固有種。葉は小さく3裂～5裂又は裂けないものもある。翼状に開いた果実は赤みを帯びよく目立つ。秋には黄葉が美しい。樹皮が瓜の果皮に似ていることが名の由来。



⑤ ウワミズザクラ (バラ科)
 落葉高木。桜の仲間だが、桜の花とはイメージの違う長く長い穂状の花が、5月頃葉が開いた後に咲く。新潟ではつぼみを塩漬したもの「杏仁香(あんじんご)」と呼んで食用にする。果実は果実酒として利用。いずれもよい香りがする。



⑥ カマツカ (バラ科)
 別名ウシゴロシ。落葉低木。4～5月頃枝先に白い小さな花を10～20個つける。秋には黄葉し、ナシ状の果実は長さ1cmの楕円形で赤く熟す。名の由来は材が硬く折れにくく、鎌の柄や牛の鼻ぐりに使用されたことから。



⑦ コシアブラ (ウコギ科)
 落葉高木。別名バカノキ。葉柄は長く掌状に5枚の小葉をつける。8月頃淡黄の小さい花をつけ実は10月頃黒く熟す。若枝の皮をこすって鞘(さや)状に抜き笛を作る。樹脂液をこして塗料としたことからこの名がつけられた。若い葉は山菜として美味。



⑧ コバノガマズミ (スイカズラ科)
 落葉低木。山地の明るい所に生える。葉の両面に毛がありさわるとピロロド状の感触あり。類似種に「ガマズミ」「ミヤマガマズミ」がある。花は白く枝先にたくさん集まって付く。果実は秋に赤く熟し酸っぱい。



⑨ ザイフリボク (バラ科)
 別名シデザクラ。落葉小高木。4～5月白い花が集まって咲く。名の由来は白く細長い花が武將の指揮する采配や神社の四手に似ることから。ナシ状の果実は1cmの球形で黒紫色に熟し食べられる。



⑩ シヤシャンボ (ツツジ科)
 常緑低木。葉は厚い革質で基部はクサビ形。さわると裏面の葉脈が目立つ。花は白い筒状で下向きに多数つける。実は球形で黒く熟し食べられる。名の由来は、小さな実がたくさん付くことから「小小坊(ササンボ)」。



⑪ シロダモ (クスノキ科)
 常緑高木。雌雄異株。若葉は黄褐色の絹毛におおわれ軟らかい。葉の葉脈は3本に分かれ裏面はロウ質で灰白色。秋に葉のわきに黄褐色の小さな花が集まって付く。果実は翌年の秋に赤く熟すので、雌株では花と実が同時にみられる。木全体に芳香がある。



⑫ タカノツメ (ウコギ科)
 落葉小高木。雌雄異株。日本固有。葉は3小葉。小さな黄緑色の花を多数つける。実は秋に黒色に熟す。秋の黄葉が美しい。冬芽がタカの爪に見えることからこの名がつけられた。山菜として食べられる。



⑬ テイカカズラ (キョウチクトウ科)
 常緑つる性木本。付着根を出し木や岩をよじ登る。白い5弁花はねじれて咲きよい芳香がある。果実は熟すと裂けて中から白い毛の付いた種子が風に乗って飛ぶ。名は藤原定家が愛する人を忘れられず、墓になってその人の墓に絡みついたというお話にちなむ。



⑭ ナナカマド (バラ科)
 落葉高木。葉は奇数羽状複葉。花は6～7月に白い花が枝先に集まって咲く。秋の紅葉が美しい。名の由来は7回かまどに入れても燃え尽きないことから。街路樹、器具材に利用。



⑮ ネコノチチ (クロウメモドキ科)
 落葉小高木。葉は2枚ずつ互生するのが特徴。5～6月葉腋に黄白色の花を数個つける。果実は黄色から黒色に熟す。名の由来は果実が猫の乳首に似ることから。



⑯ ネジキ (ツツジ科)
 落葉小低木。幹がねじれることからこの名がある。6月頃白い筒状の花を下向きに多数つける。果実は扁平な球形で上を向く。樹皮は触ると冬でも暖かく感じる。有毒植物。



⑰ ユズリハ (ユズリハ科)
 常緑高木。雌雄異株。葉は大きく葉柄は赤色を帯びる。春に若葉が出ると古い葉が落ちることから「譲り葉」の名がある。親から成長した子へと代々続くめでたい木とされ正月の飾りに使用。



松江樹木めぐり
 古代ロマンを感じる
 茶白山周辺

